



The Heart of Industry

2024年3月期  
第2四半期 決算説明資料

2023年11月14日

株式会社イワキ 証券コード：6237  
銘柄名：イワキポンプ



イワキニアポンプ “LR” シリーズ

製品説明：静音、無脈動、連続流を実現

人間工学に基づいた縦型ポンプモデルを採用し、  
持ち運びも簡単なコンパクトサイズ

**I . 2024年3月期 第2四半期 決算概要 P.3**

**II . 2024年3月期 業績見通し P.14**

**III . 収穫期 中期経営計画について P.21**

**IV . Appendix P.28**



# **I . 2024年3月期 第2四半期 決算概要**

# 2024年3月期 2Q 決算サマリー



全市場の売上が好調に推移。新規連結子会社（イワキ香港G、イワキ上海）の業績寄与により、大幅増収・増益。前年同期の特別利益計上額大きく、最終利益では減益。

	2023.3期 2Q		2024.3期 2Q		
	金額 (百万円)	金額 (百万円)	差額	増減率 (前年同期比)	
売上高	17,810	<b>22,436</b>	4,625	+26.0%	
売上総利益 (売上総利益率)	5,972 (33.5%)	<b>8,925</b> <b>(39.8%)</b>	2,952	+49.4%	
営業利益 (営業利益率)	1,185 (6.7%)	<b>2,805</b> <b>(12.5%)</b>	1,619	+136.6%	
経常利益	2,205	<b>3,270</b>	1,064	+48.3%	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,987	<b>2,188</b>	▲798	▲26.7%	
1株当たり四半期純利益	136.19円	<b>99.46円</b>	▲36.73円	▲27.0%	
為替レート (期中平均)	ドル	123.15円	134.99円		
	ユーロ	134.39円	145.92円		
	香港ドル	—	17.22円		
	中国人民元	—	19.45円		

## 1 売上高：全市場二桁成長、新規連結子会社の連結効果大きく、円安も寄与

- 新規連結子会社（イワキ香港G、イワキ上海）の今期2Q累計売上高影響額は3,396百万円（連結調整前）。
- イワキ香港Gは医療機器市場、イワキ上海は半導体・液晶市場が牽引。
- 表面処理装置市場、半導体・液晶市場の落ち込み影響を受け、台湾を中心にアジア向けは低調。
- 売上高における為替影響(前年同期比)は+802百万円。

## 2 営業利益：新規連結子会社の連結効果に加え、その他の増収効果により大幅増益

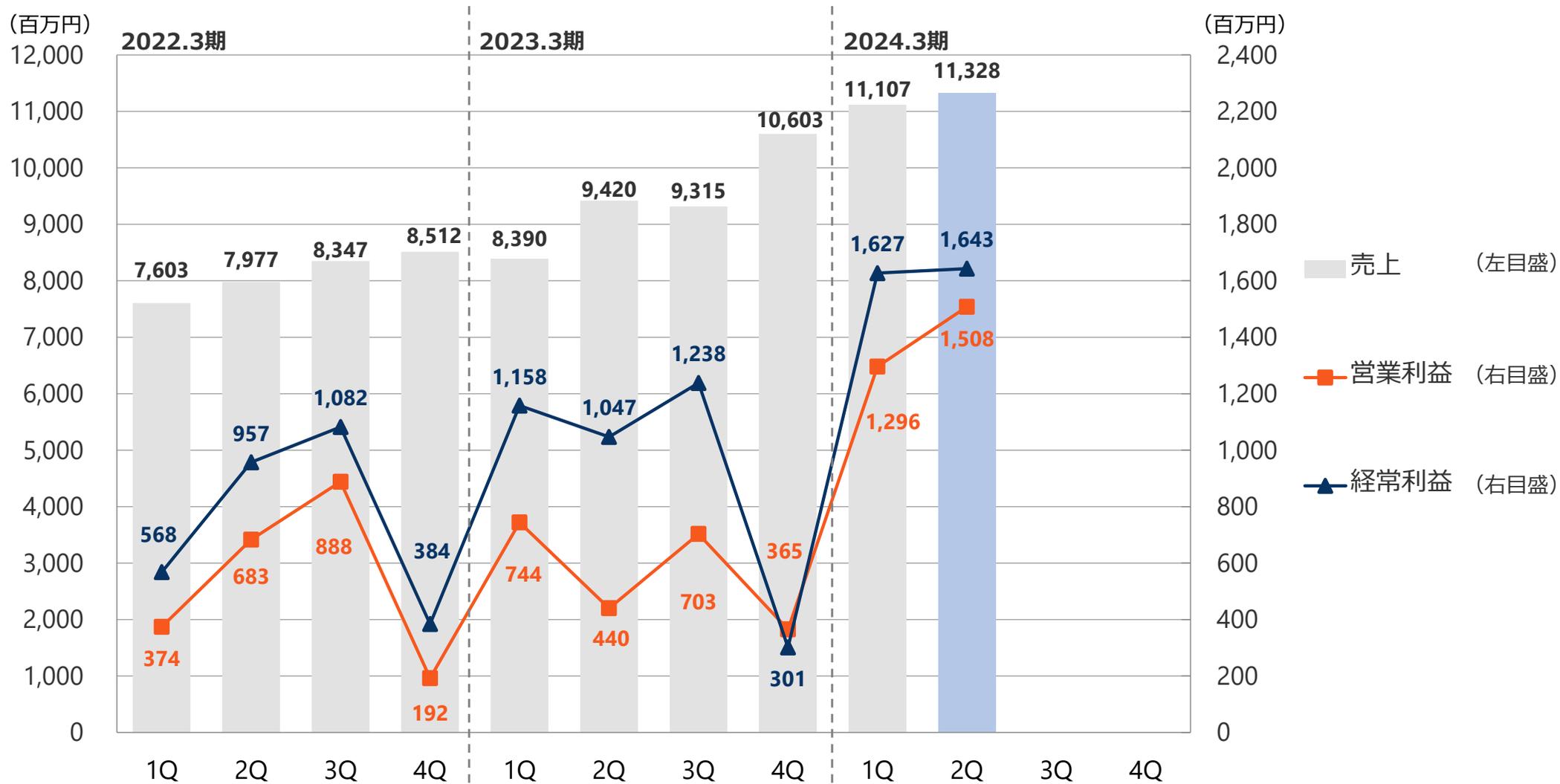
- 新規連結子会社の今期2Q累計営業利益影響額は1,161百万円（連結調整前）。
- 新規連結子会社以外の各社も増益。
- 営業利益における為替影響(前年同期比)は+285百万円。

## 3 親会社株主に帰属する四半期純利益：前期発生の特種利益の剥落等により最終利益は減益

- イワキ香港G、イワキ上海の子会社化やイワキ台湾の減益により持分法による投資利益が減少。
- 前期は段階取得に係る差益(特別利益 1,297百万円)が発生、今期は発生なく最終利益は前年同期比減益。

# 売上高・営業利益の推移（四半期ベース）

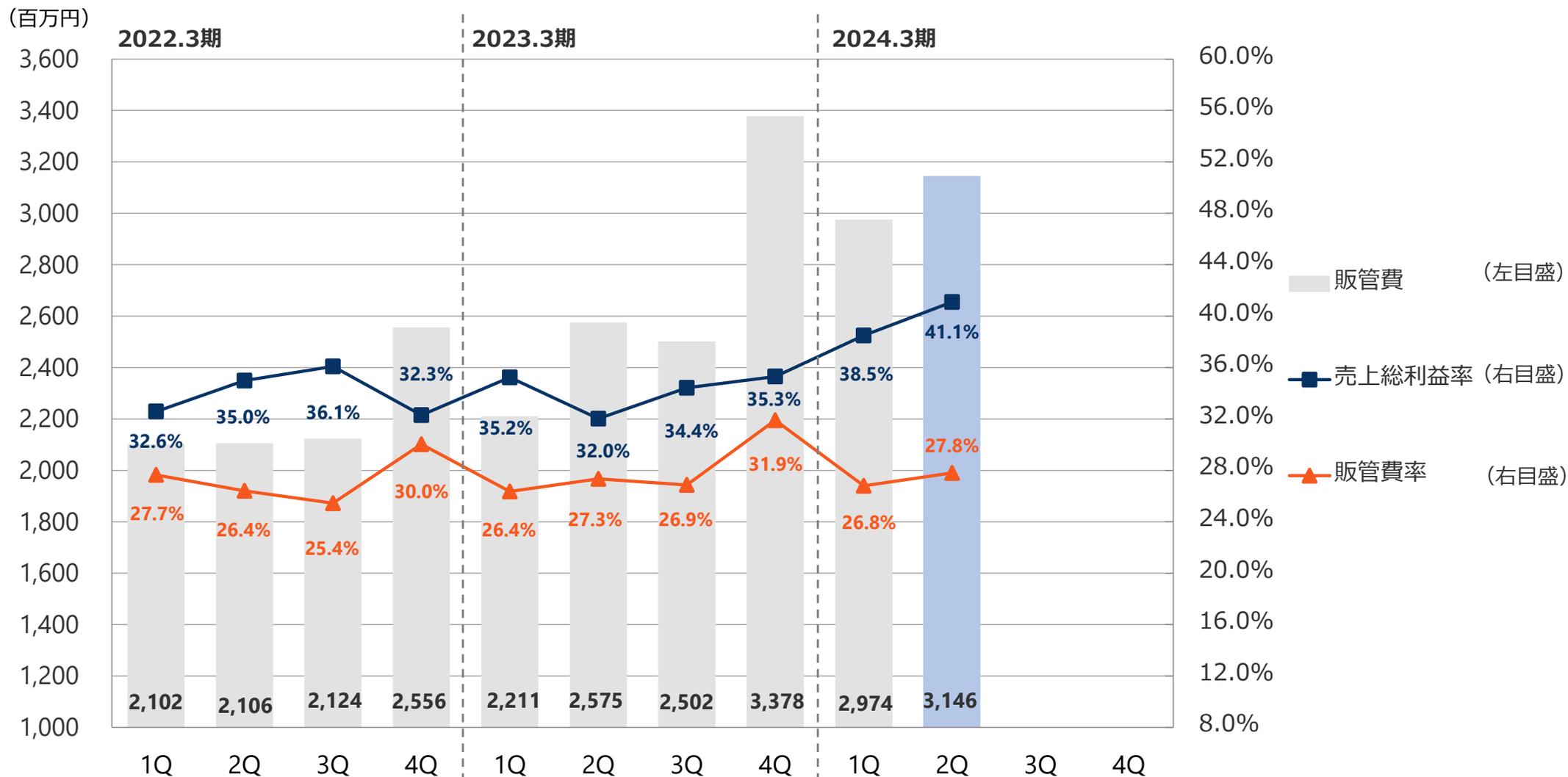
新規連結子会社の連結効果大きく、売上及び各段階利益も高水準で推移。



※2023.3期4Q及び2024.3期1Qの実績値は、新規連結子会社の取得原価の配分（PPA）確定後の償却費を反映。

# 売上総利益率・販管費（率）の推移（四半期ベース）

高収益体質の新規連結子会社の連結効果により売上総利益率改善。  
 当該子会社の販管費純増やのれん償却費、無形固定資産償却費の増加。  
 また全体の旅費交通費なども増加するも、販管費率は従前水準並みを維持。



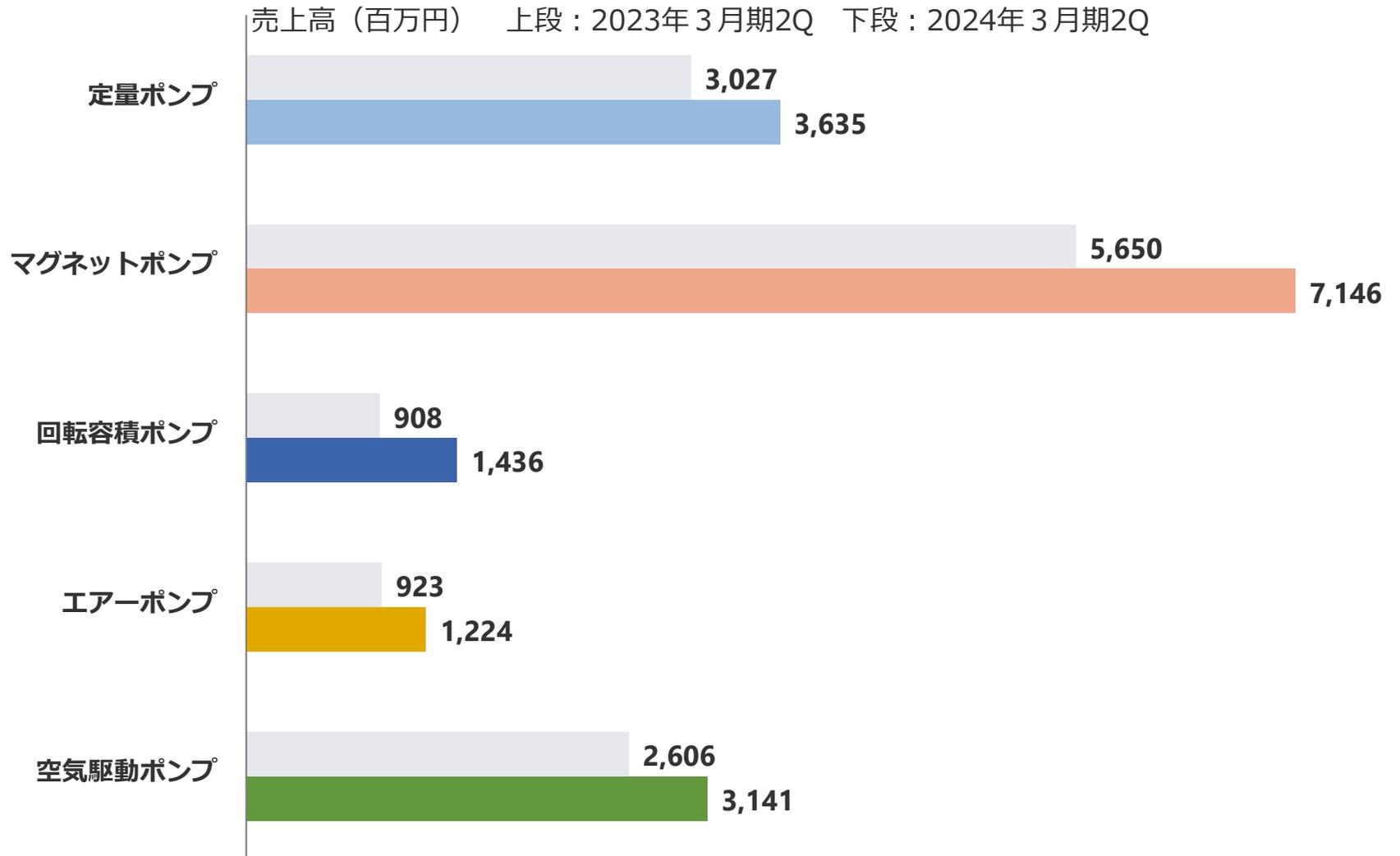
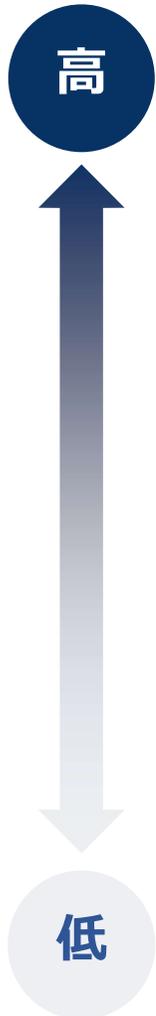
※2023.3期4Q及び2024.3期1Qの実績値は、新規連結子会社の取得原価の配分（PPA）確定後の償却費を反映。

# 製品別 販売市場について

マルチ市場 への販売	主なポンプ 用途	マグネット ポンプ 	定量ポンプ 	空気駆動 ポンプ 	回転容積 ポンプ 	エアー ポンプ 	システム 製品 
半導体・ 液晶市場	半導体製造装置 他	●	○	●			○
医療機器市場	人工透析装置 臨床分析装置 他	○	○		●	●	○
表面処理装置 市場	プリント基板製造装置 電子部品製造 他	●	○				○
化学市場	化学薬液製造 他	●	○		○		○
水処理市場	浄水場 排水処理場 クーリングタワー 他	○	●		○	○	○
新エネルギー 市場	再生可能エネルギー 二次電池製造 他	○	○		●		○
その他 (食品・製紙等)	食品洗浄 各種冷却用途 他	○	○		●	○	○

※ 塗りつぶし：各市場におけるメインポンプ

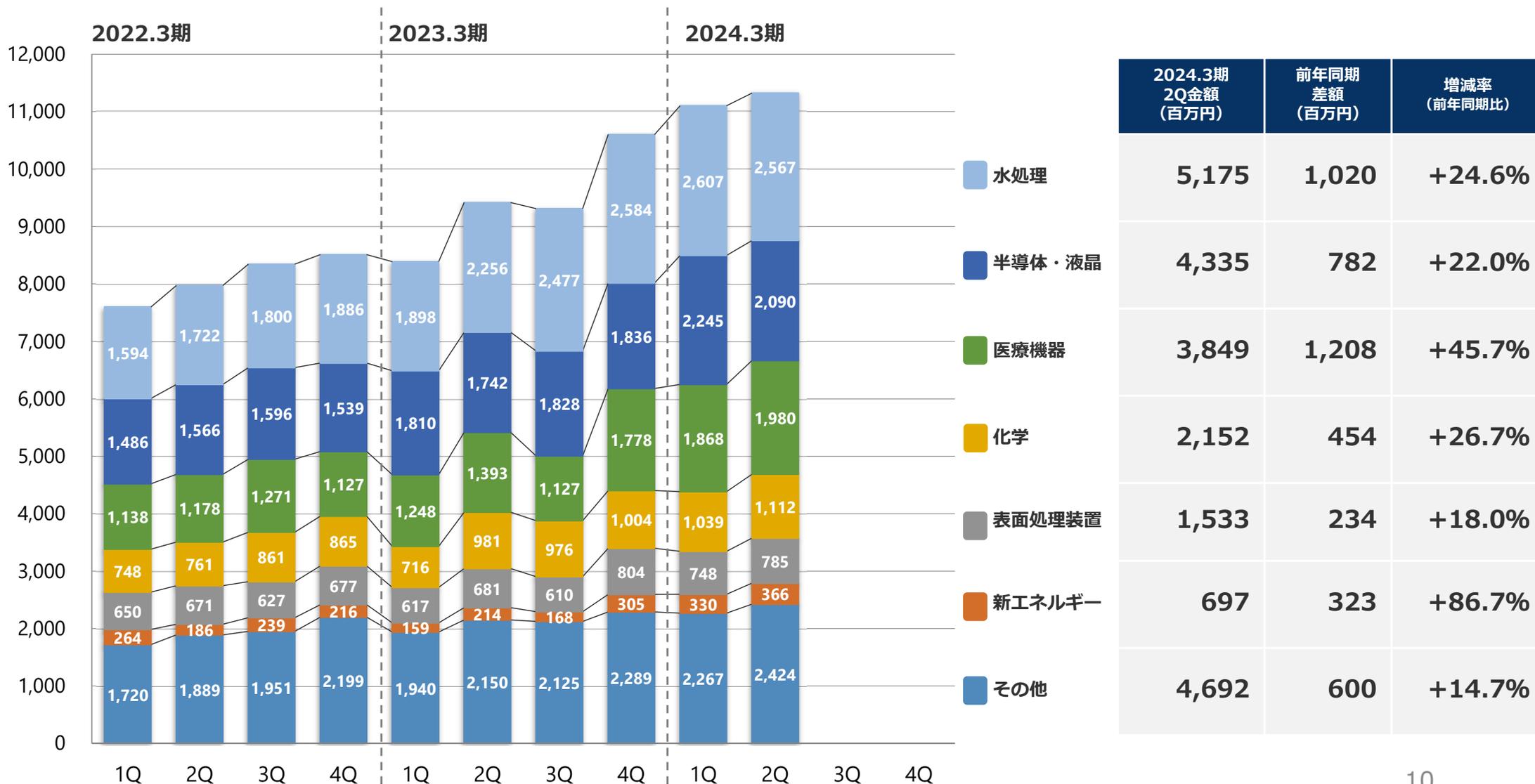
収益性の高・低



※システム製品、仕入商品、その他除く

# 市場別売上高

全市場二桁成長。国内・米国向け好調な水処理市場と、国内向け好調且つイワキ香港Gの損益取込み影響あった医療機器市場が全体を牽引。

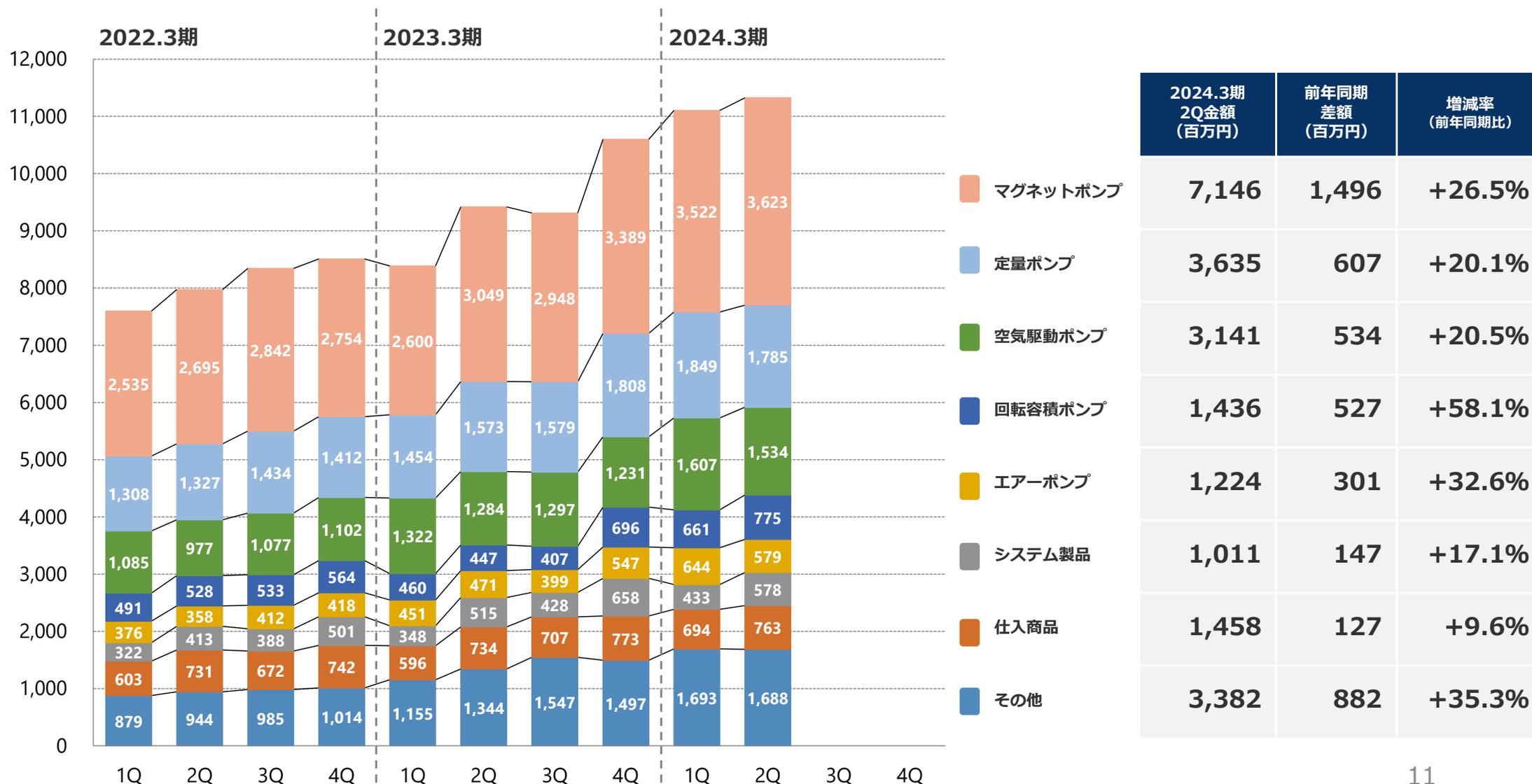


# 製品別売上高

仕入商品を除き二桁成長

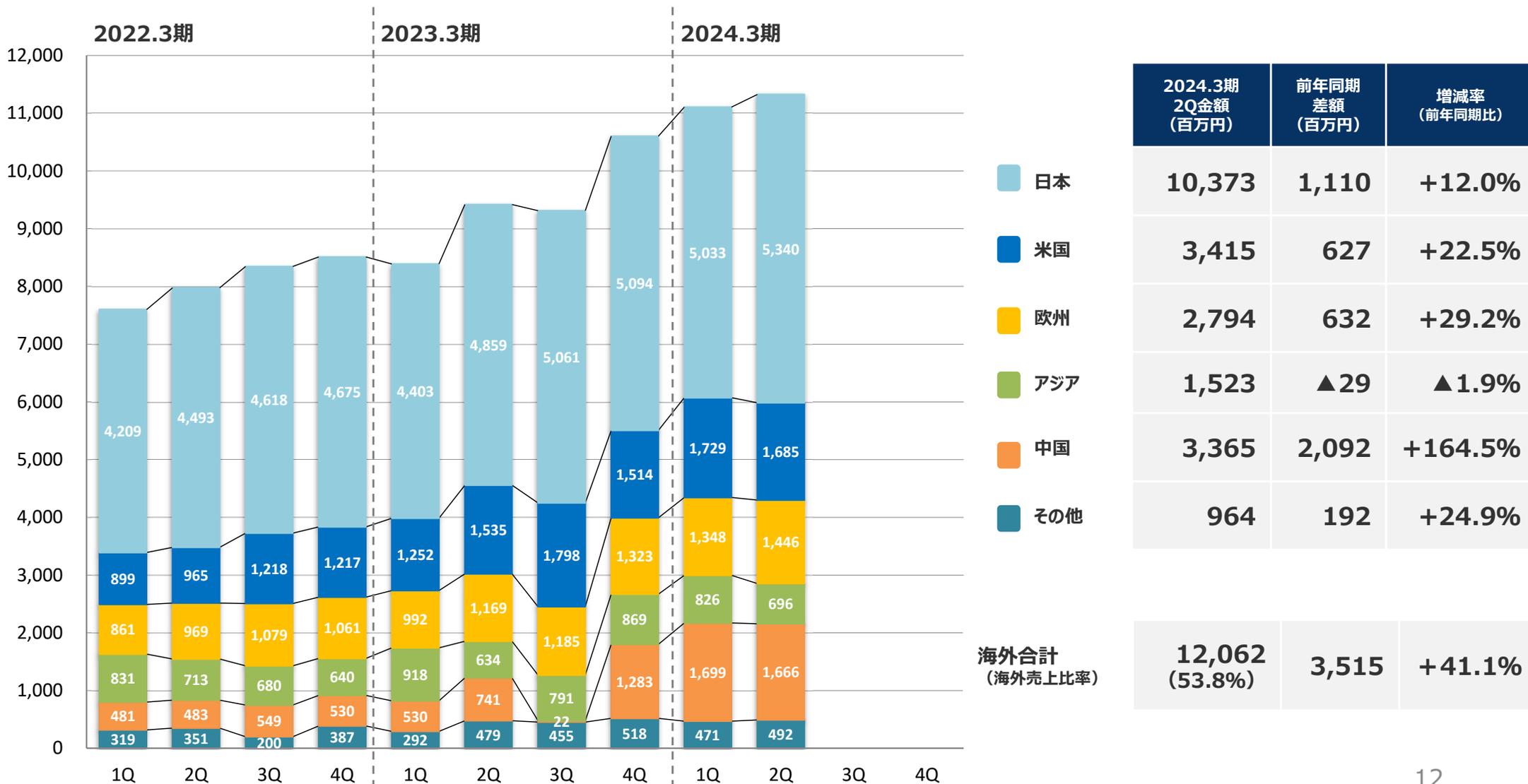
医療機器市場の好調を受け、回転容積ポンプが伸長。

主力製品であるマグネットポンプ、定量ポンプも好調に推移。

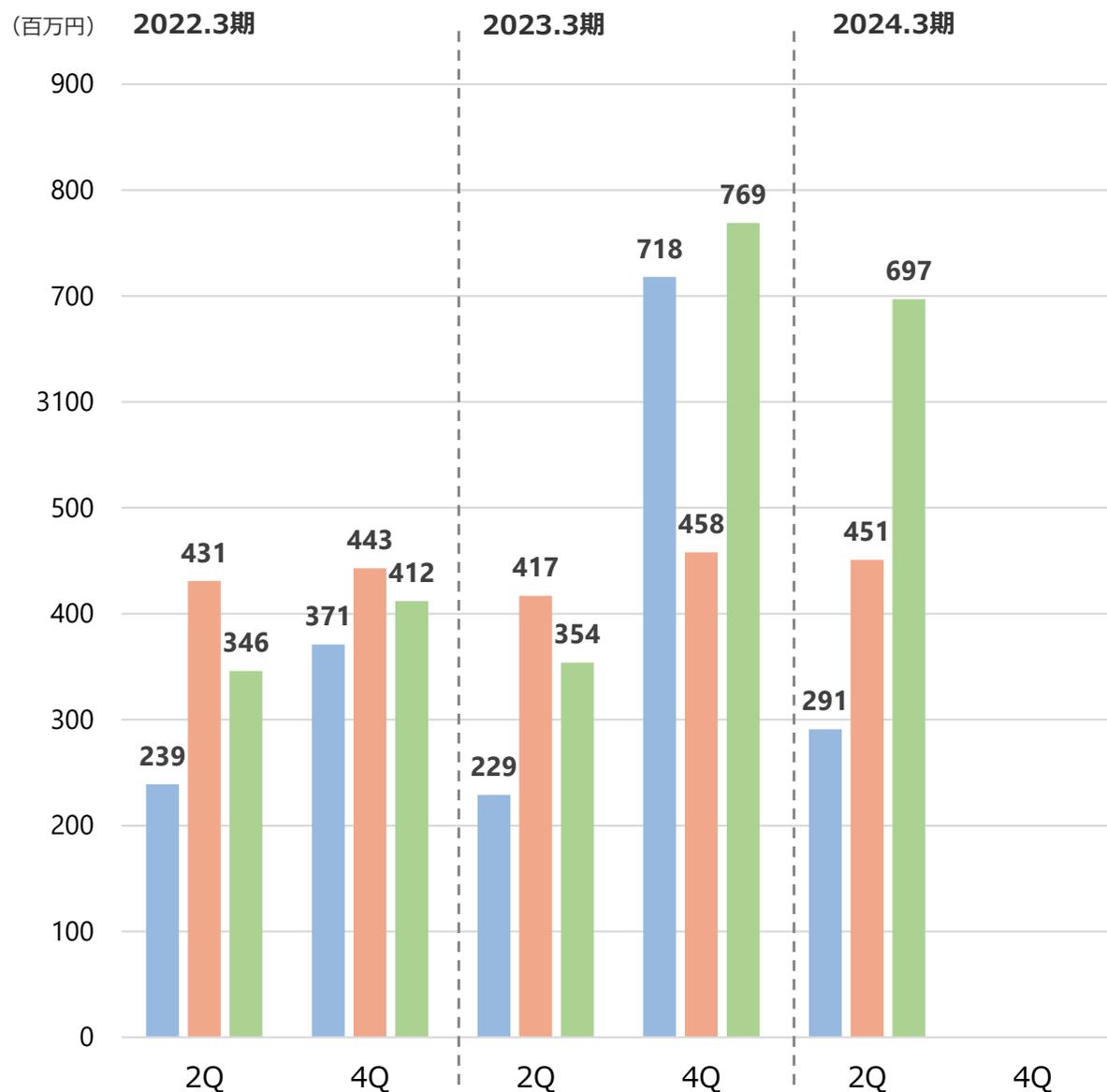


# 地域別売上高

表面処理装置市場、半導体・液晶市場の売上が大半を占める台湾向けの苦戦により、アジア向け低調。その他の地域は好調に推移。中国向けは新規連結子会社の連結効果で大幅増。



# 設備投資・研究開発費・減価償却費推移（半期毎）



	2024.3月期 2Q累計金額 (百万円)	増減額 (前年同期比)
■ 設備投資	<b>291</b>	<b>+61</b>
■ 研究開発費	<b>451</b>	<b>+34</b>
■ 減価償却費	<b>697</b>	<b>+342</b>

※2023.3期 4Qは、新規連結子会社の取得原価の配分（PPA）確定後の償却費を反映。



## Ⅱ. 2024年3月期 業績見通し

# 2024年3月期 業績予想



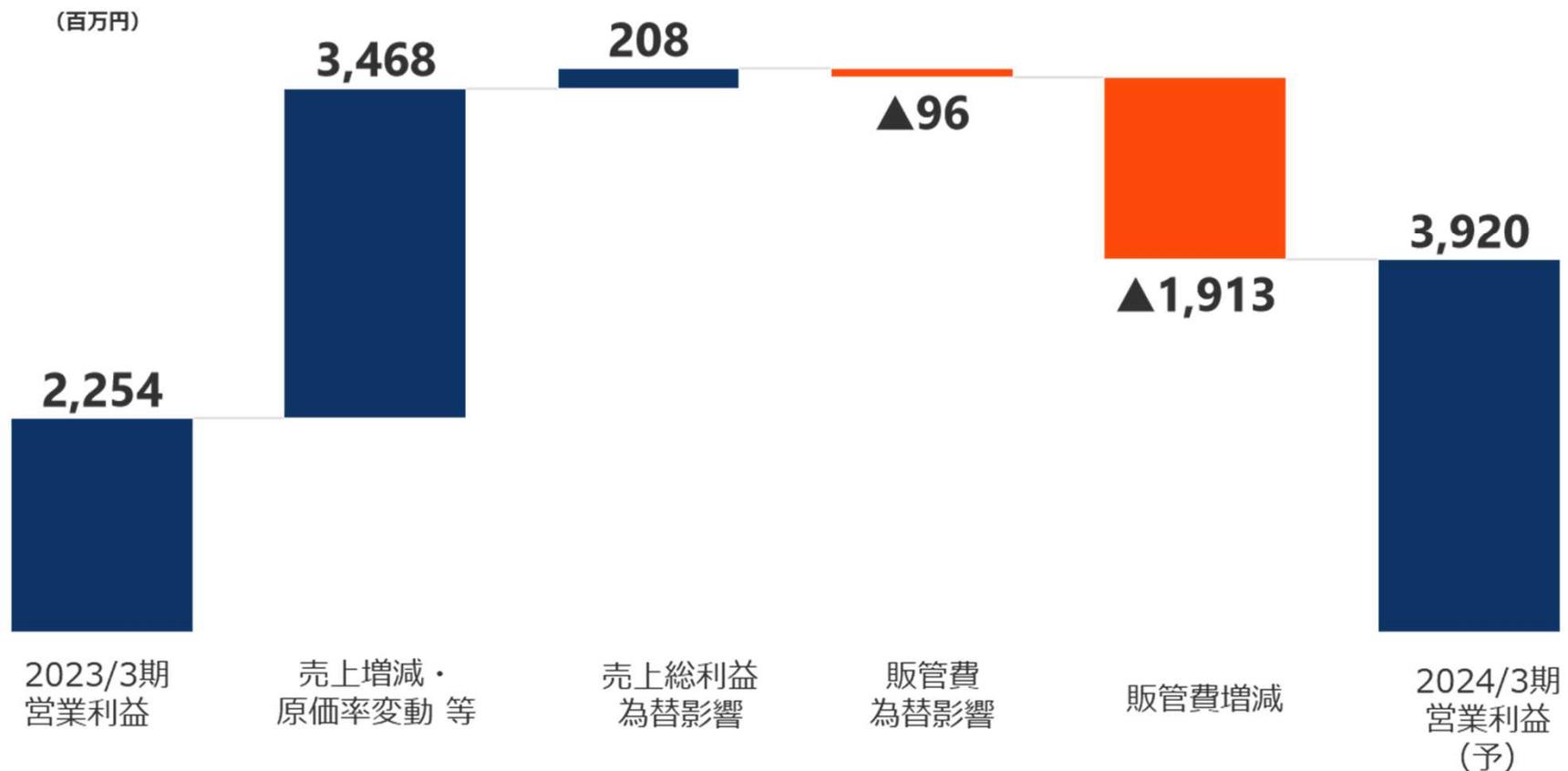
- 特に海外向けで受注減速感あるが、中国は好調を維持しており、売上ベースでは上期比若干減の想定。
- 上期未消化分の経費発生も見込み、当該発生分下期の各段階利益は当初想定より減少の見込み。
- 受注面を中心に不透明な部分多く、現時点では売上、各段階利益ともに通期予想を据え置く。

	2023.3期		2024.3期 (予)	
	金額 (百万円)	金額 (百万円)	差額	増減率 (前年比)
売上高	37,730	<b>44,181</b>	6,450	+17.1%
売上総利益 (売上総利益率)	12,923 (34.3%)	<b>16,600</b> <b>(37.6%)</b>	3,676	+28.4%
営業利益 (営業利益率)	2,254 (6.0%)	<b>3,920</b> <b>(8.9%)</b>	1,665	+73.9%
経常利益	3,745	<b>4,302</b>	556	+14.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,257	<b>3,115</b>	▲1,142	▲26.8%
1株当たり当期純利益	193.94 円	<b>141.79 円</b>	▲52.15円	▲26.9%
自己資本当期純利益率 (ROE)	15.8%	<b>10.5%</b>	—	(▲5.3pt)
投下資本利益率 (ROIC)	6.9%	<b>9.4%</b>	—	(+2.5pt)
為替レート (期中平均)	ドル	131.64 円	136.00円	
	ユーロ	138.15 円	143.00円	
	香港ドル	18.08 円	17.40円	
	中国人民幣元	19.86 円	19.70円	

※2023.3期4Qの実績値は、新規連結子会社の取得原価の配分 (PPA) 確定後の償却費を反映。

# 2024年3月期 業績予想 増減益分析

通期： 為替1円当たりの感応度	USドル	ユーロ	香港ドル	中国人民元
売上	68百万円	34百万円	191百万円	149百万円
営業利益	21百万円	15百万円	67百万円	51百万円



※2023.3期4Qの実績値は、新規連結子会社の取得原価の配分（PPA）確定後の償却費を反映。

# 2024年3月期 下期 市場環境の想定

2024年3月期より半導体・液晶市場を強化市場へ。

強化市場

各市場	国内	海外
水処理市場	<ul style="list-style-type: none"> <li>上下水処理、ごみ処理、一般産業廃水処理市場が好調</li> <li>食の安心安全、災害対策等の観点より、滅菌市場、水耕土耕栽培市場が好調</li> <li>インバウンド需要の回復に伴い、滅菌市場、クーリングタワー市場が好調</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然災害に関する上下水道の整備投資は堅調</li> <li>市場全体としては不透明感あり</li> </ul>
医療機器市場	<ul style="list-style-type: none"> <li>市場全体としては復調傾向にある</li> <li>臨床検査装置（免疫分析装置+生化学分析装置）昨年低迷分の回復傾向が高まるが、各社とも部材調達が難航している</li> <li>内視鏡洗浄装置も臨床検査装置同様回復傾向にはあるが、各社とも部材調達が難航している</li> <li>人工透析装置のメンテナンス需要回復・代替需要も回復基調</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市場全体としては軟調傾向にある</li> <li>臨床検査装置（免疫分析装置+生化学分析装置）物流の混乱は徐々に落ち着きを取り戻しつつあるが、中国装置メーカー各社の生産調整により、軟調に推移する見込み</li> </ul>
新エネルギー市場	<ul style="list-style-type: none"> <li>セルメーカー、材料メーカー、電池リサイクルなどで投資計画が活発</li> <li>家庭用燃料電池は需要が安定しており生産台数も堅調に推移</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アジアに加え、欧米で二次電池設備投資の引き合いが活発</li> </ul>
半導体・液晶市場	<ul style="list-style-type: none"> <li>当該製造装置メーカー向け需要に不透明感あり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ファウンドリ、メモリ向け設備投資の先送りによる不透明感あり</li> </ul>
化学市場	<ul style="list-style-type: none"> <li>高付加価値製品の開発の堅調</li> <li>石油化学事業の分離、再編が続く</li> <li>環境規制・脱カーボンによる樹脂リサイクル等による需要が増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>欧州・北米で二次電池材料の製造投資が堅調</li> <li>米国・アジアで半導体向け薬品製造投資が堅調</li> </ul>
表面処理装置市場	<ul style="list-style-type: none"> <li>5G対応、デジタル投資拡大による電子部品需要が拡大傾向</li> <li>半導体サプライチェーンの強靱化等により堅調</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>半導体市場の影響を受け、当該市場も不透明感あり</li> </ul>

※ 赤字はネガティブな見通し

# 2024年3月期 市場別売上高予想

米国の水処理市場向け、中国の半導体・液晶市場、医療機器市場向けを中心に増収の見込み。

	2023.3期 実績 (百万円)	2024.3期 予想 (百万円)	差額	増減率	【参考】 2024.3期 2Q実績 (百万円)
■ 水処理	9,217	10,543	1,326	+14.4%	5,175
■ 半導体・液晶	7,217	8,535	1,317	+18.3%	4,335
■ 医療機器	5,547	6,933	1,386	+25.0%	3,849
■ 化学	3,678	4,455	776	+21.1%	2,152
■ 表面処理装置	2,714	3,268	554	+20.4%	1,533
■ 新エネルギー	847	1,128	280	+33.1%	697
■ その他	8,506	9,315	809	+9.5%	4,692
合計	37,730	44,181	6,450	+17.1%	22,436

# 2024年3月期 製品別売上高予想

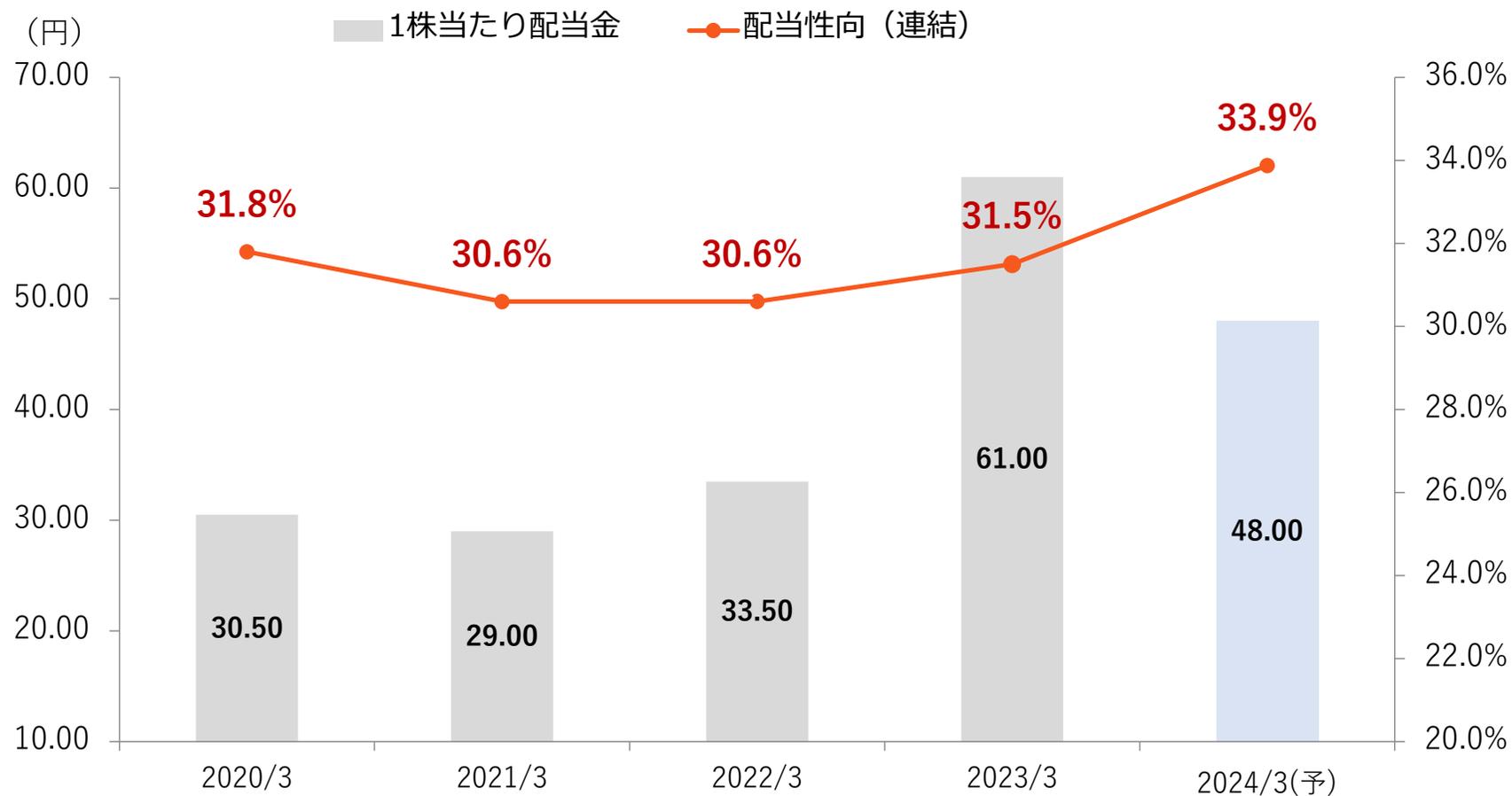


市場別の予想にて関連する、マグネットポンプ・定量ポンプ・空気駆動ポンプが伸長する見込み。

	2023.3期 実績 (百万円)	2024.3期 予想 (百万円)	差額	増減率	【参考】 2024.3期 2Q実績 (百万円)
■ マグネットポンプ	11,988	14,119	2,131	+17.8%	7,146
■ 定量ポンプ	6,416	7,894	1,478	+23.0%	3,635
■ 空気駆動ポンプ	5,135	6,160	1,024	+20.0%	3,141
■ 回転容積ポンプ	2,012	2,467	455	+22.6%	1,436
■ エアーポンプ	1,870	2,444	573	+30.7%	1,224
■ システム製品	1,951	1,967	16	+0.8%	1,011
■ 仕入商品	2,811	2,885	74	+2.6%	1,458
■ その他	5,544	6,241	696	+12.6%	3,382
合計	37,730	44,181	6,450	+17.1%	22,436

## 基本方針

- ・ 配当性向30%超
- ・ 安定的な配当





## Ⅲ. 収穫期 中期経営計画について

2025年3月期までに

連結売上高：400億円（国内200億円、海外200億円）、連結売上高営業利益率：10%

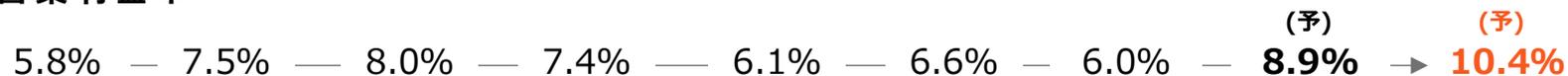
定量目標

種時期			育成期			収穫期		
2017/3期	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期	2025/3期

## 連結売上高



## 営業利益率



定性目標

**オールイワキで世界No.1を提供する**  
 ～ グループ一丸となり、世界No.1の製品、品質、価値、サービスを提供する ～

**目標を達成するための姿勢 「チェンジ&チャレンジ」**

～ 変革と挑戦に躊躇しない企業文化の定着を目指す ～

	2024.3期 計画		2025.3期 計画	
	金額 (百万円)	増減率 (前年比)	金額 (百万円)	増減率 (前年比)
売上高	44,181	+17.1%	46,508	+5.3%
売上総利益	16,600	+28.4%	17,985	+8.3%
営業利益	3,920	+73.9%	4,825	+23.1%
経常利益	4,302	+14.9%	5,215	+21.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,115	▲26.8%	3,807	+22.2%

- 2025.3期の売上高は、主に水処理市場・医療機器市場向けが堅調に推移することを勘案し、増収を見込む。国内+3.0%、海外+7.2%
- 2025.3期に3年に一度開催の大型展示会費用発生の見込み。
- 増収効果により来期の営業利益は8.3%増、  
営業利益率8.9% → 10.4% となり、10年ビジョン定量目標の営業利益率達成を見込む。
- 持分法による投資利益は横ばい、為替差損益はゼロと想定。
- 主に増収効果等により、営業利益以降の各段階利益は20%以上の増加を見込む。

## 新たに連結子会社となった 中国グループとの グループシナジーの最大化

中国グループ子会社化による連結決算上の影響は大きく、事業運営・経営管理面においても大きなインパクトがある。同グループの持続的発展のためにも、グループ全体としてのシナジー創出が求められる。また子会社化のメリットを最大限発揮し、更なるCS向上に繋げていく。

連結売上高に大きく貢献している  
中国グループは更なる  
グループシナジー効果創出に向け  
販売・生産・管理面の連携強化  
を進める。

## 強化市場の再定義

「半導体・液晶市場」の強化市場追加に向けた検討を行う。これまで維持市場と定義していたが、デジタル化やDXの必要性の高まりなど、半導体を取り巻く環境は大きく変化しており、長期的な観点からも強化市場格上げへの検討が必要。

2024年3月期より「半導体・液晶市場」  
を維持市場から強化市場へ格上げし、  
外部市場環境に対応していく。

## ソリューションビジネスの再定義

これまでも様々なソリューションを提供してきたが、社内に存在する技術やサービスを完全には活かすきれてはいないものと認識。更なる課題解決提案に向け、社内情報整理すると共に、よりお客様の「かゆいところに手が届く」よう製品・サービスの方向性を明確化し、CS向上に繋げる。

発足した  
「水質関連未来構想プロジェクト」  
を中心に、当社における  
当該サービスの在り方について検討中。  
(1回/2ヶ月開催)

## サステナビリティの観点を踏まえた 次期長期ビジョンの策定

現10年ビジョン（～2025年3月期）に次ぐ、新たな長期ビジョン策定に向けプロジェクト発足。

社会課題の解決による持続可能な社会の実現と持続的な企業価値向上を両立させることの重要性が高まっている中、サステナビリティの観点を踏まえた経営を推進すべく、ビジョンの検討を行う。

2023年3月期作成の骨子案を基に、  
事業面とサステナビリティ面の両面を踏まえ  
次期長期ビジョン案の具体的内容検討中。  
(2回/月開催)

次期長期ビジョン 2026年3月期～

### 定量目標

2024年秋頃発表予定

### 定性目標

2024年秋頃発表予定



## ■ 現状分析

	2021.3期	2022.3期	2023.3期
売上高（百万円）	28,162	32,439	37,730
営業利益率	6.1%	6.6%	6.0%
ROIC	6.0%	6.6%	6.9%
WACC	5.8%	4.8%	2.9%
PBR	0.89倍	0.95倍	0.99倍

- 資本コストを上回る資本収益性を達成しているものの、直近3事業年度のPBRは**1倍未満**で推移
- ROEは8%を超え、直近2事業年度は10%超の水準  
一方、PERは**15倍を割り込む**

$$\text{PBR} = \begin{matrix} \text{短期視点} \\ \text{ROE} \end{matrix} \times \begin{matrix} \text{中長期視点} \\ \text{PER} \end{matrix}$$

	2021.3期	2022.3期	2023.3期
ROE	9.7%	10.1%	15.8%
PER	9.52倍	10.00倍	6.70倍

直近PBRは1倍超であるが、  
更なる企業価値向上のため、  
二桁のROE水準は維持しつつ、  
より中長期的な観点の取り組みの実施や  
その情報発信強化が必要

## ■ 取り組み方針

**取り組み**

**① 10年ビジョンの必達及び  
更なる成長へ挑戦する次期長期ビジョンの策定**

- ・2025年3月期 連結売上高400億円、連結営業利益率10%の達成
- ・更なる成長を遂げ、より社会に必要な存在となるための新ビジョン策定

**② 株主還元方針の見直し**

- ・市場要望などを踏まえ、現行方針「配当性向30%超」の枠にとどまらない方針案の検討

**③ サステナビリティ経営の更なる推進**

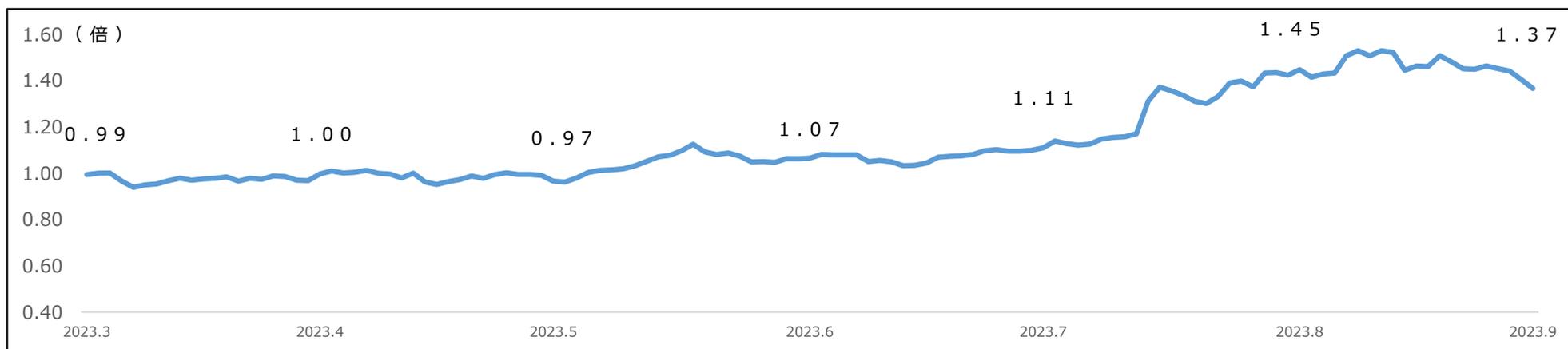
- ・企業価値向上を実現するための人材育成などをはじめ、脱炭素や人権対応など持続的な成長かつ中長期的な企業価値向上に資する取り組みへの経営資源の投入

**④ ガバナンス・IRの強化**

- ・女性役員の採用をはじめ、ステークホルダーからの客観的かつ多様な視点の取り入れ
- ・情報開示の拡充及び高度化、発信強化



## ■ 参考：直近6ヶ月のPBR推移





## **IV. Appendix**



**会社名** 株式会社イワキ (英文名 IWAKI CO., LTD.)  
**ケミカルポンプ<sup>®</sup>の専門・総合メーカー**

**設立** 1956年4月10日

**代表取締役社長** 藤中 茂

**本社** 東京都千代田区神田須田町二丁目6番6号

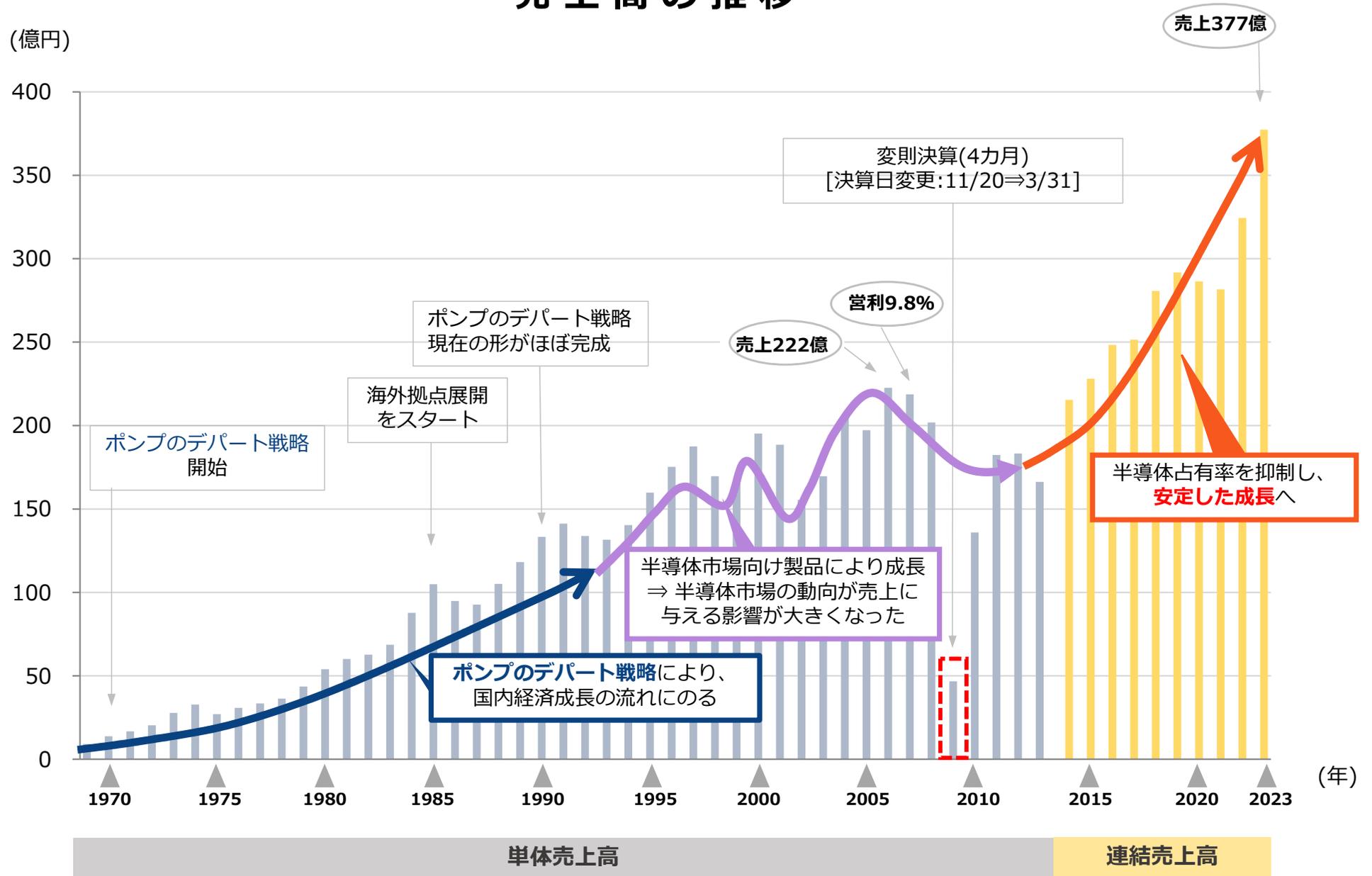
**資本金** 10億4,469万円

**従業員数** 連結：1,112人 / 単体：781人 (2023年3月31現在)

**事業内容** ケミカルポンプ及びポンプ専用コントローラ等の周辺機器の開発・製造、仕入及び販売等

**上場取引所** 東京証券取引所  
銘柄名：イワキポンプ / 証券コード：6237 / 市場：東証プライム市場

## 売上高の推移



ケミカルポンプ = 化学薬品等の薬液移送に使用されるポンプ



水を扱うポンプとは異なり、  
ケミカルポンプは主に薬液等の移送時に使用される。  
中には(人体に有害な硫酸等)危険な液体もあるため



**非常に高い安全性が求められる**  
**(漏れないこと)**

1

お客様の様々な要望にお応えできる  
豊富な製品ラインナップ

2

お客様への強力なサポートが可能な  
世界規模の生産・販売・サポート体制

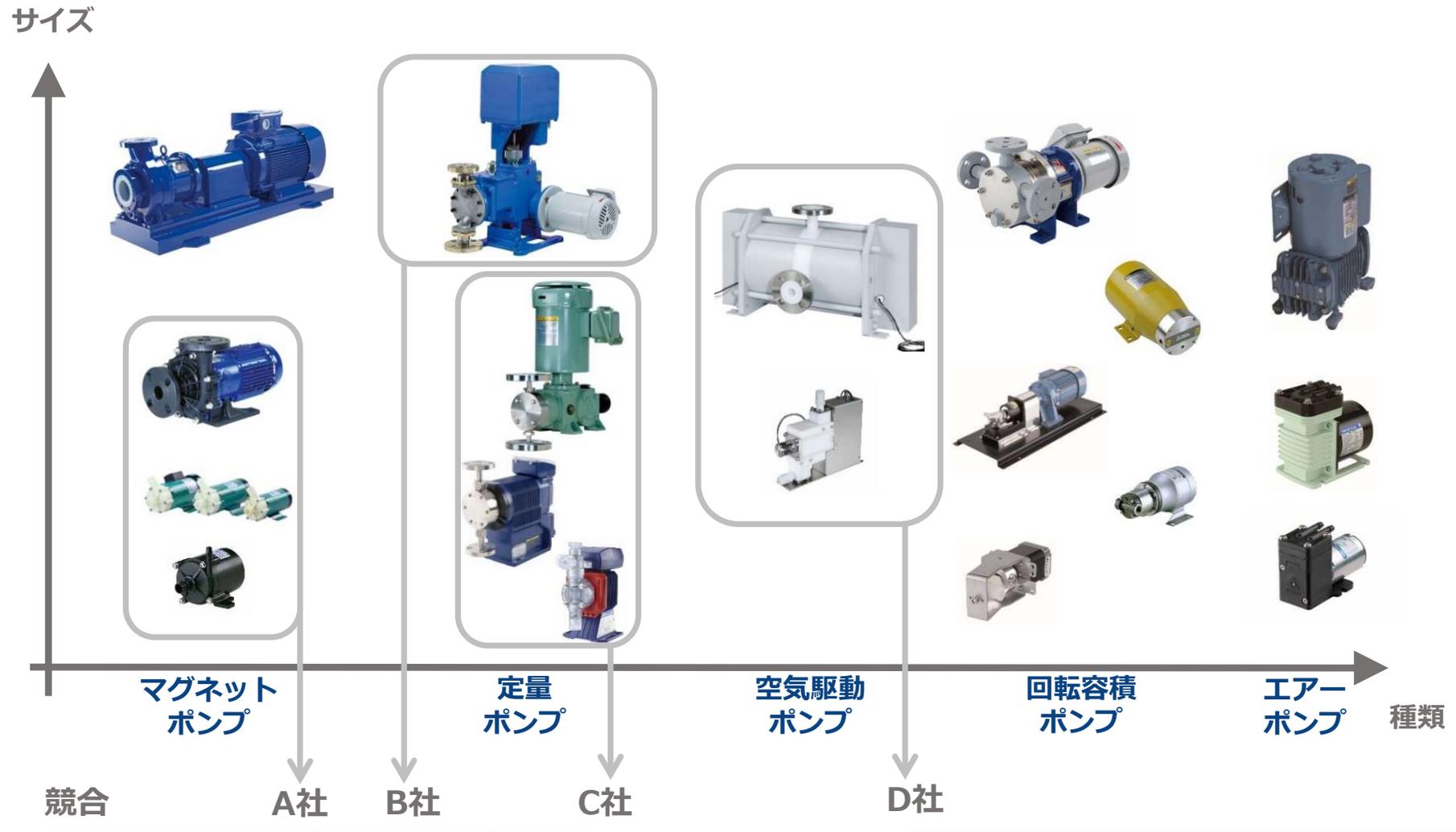
3

製品であるポンプを中心に  
「流体を制御する」機能でソリューションも提供

# 当社の強み 豊富な製品ラインナップ

各種ポンプにおいて**60シリーズ以上、数万点にのぼる型式**を展開

当社にご依頼いただければ各種ポンプを**ワンストップ**で提供可能



## 多品種少量生産を強みとしながら、年間約80万台の生産能力を有する

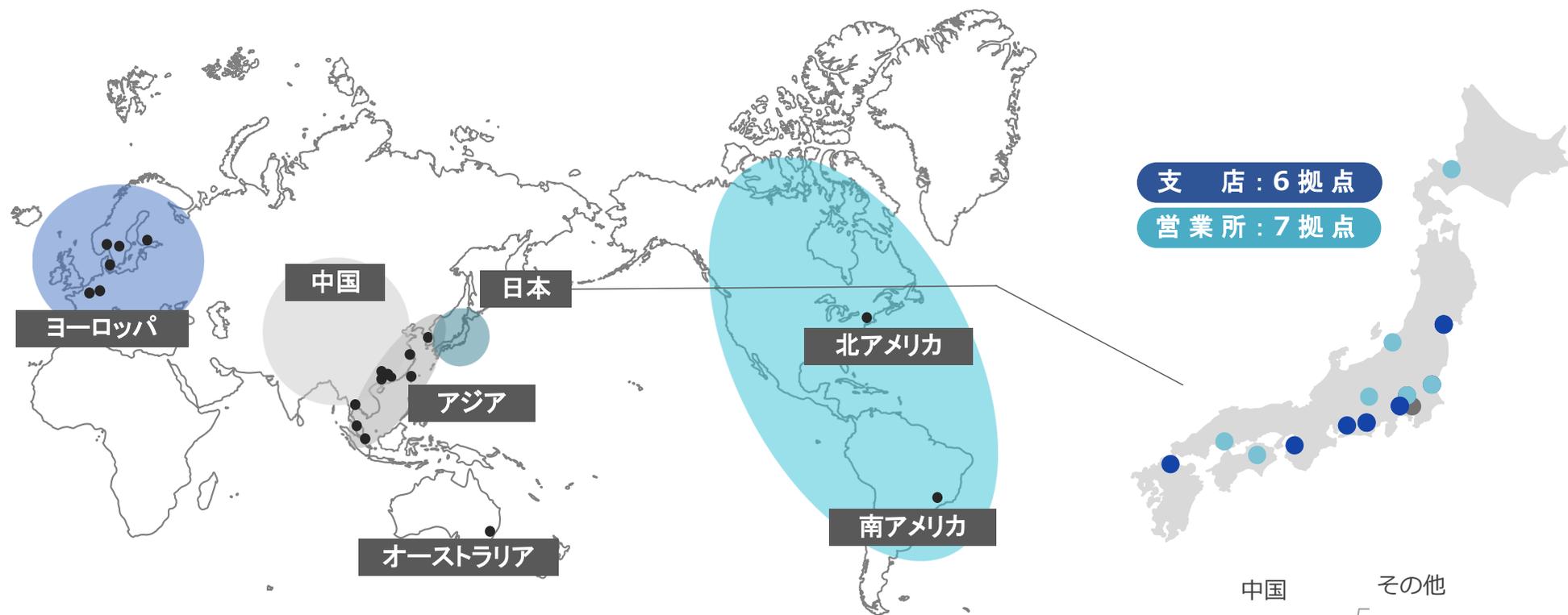
国内 … 多品種少量生産。強固な品質保証体制

海外 … 5拠点でのノックダウン生産\*により短納期・在庫効率化

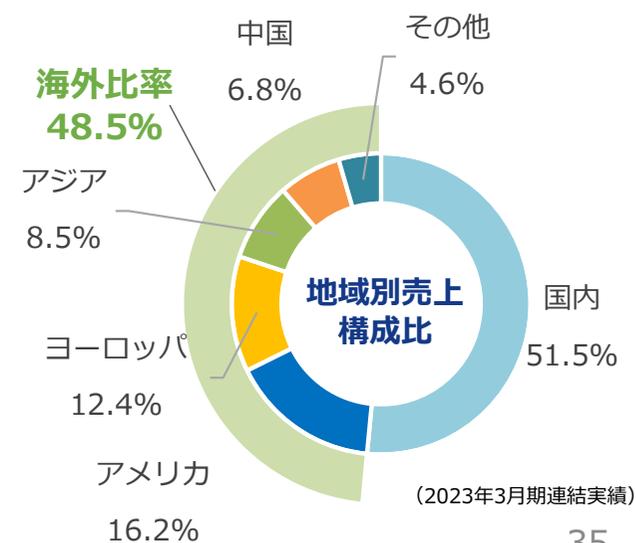
(\*ノックダウン生産 … 製品の主要部品を輸出し、現地で組立する方式)



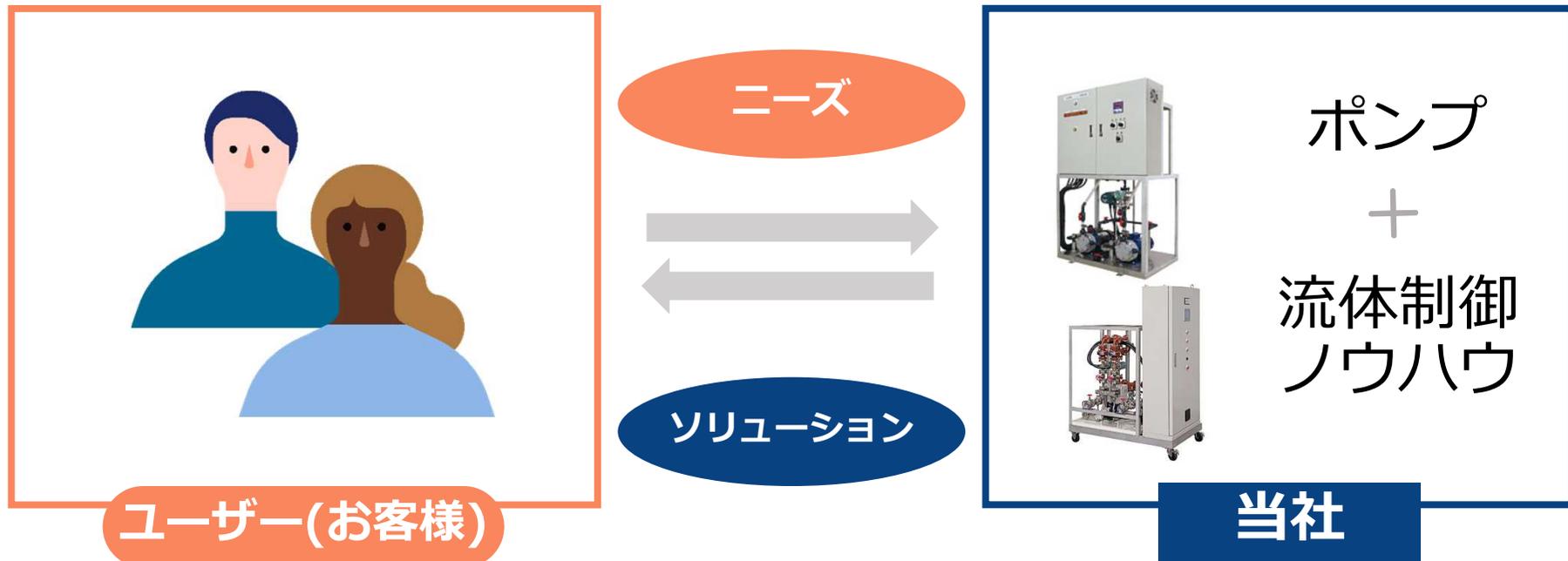
# 当社の強み 世界規模の販売・サポート体制



- 本社のほか国内主要13都市に支店・営業所を展開
- 15カ国21社のグループ会社で、ワールドワイドな販売・サービス網を構築



お客様の**ニーズ**にあった**ソリューション**を  
ポンプと流体制御ノウハウを活用し提供





The Heart of Industry

社会の発展と人々の幸福に寄与すべく、  
これからも常に最前線で産業を支えてまいります。

## 【お問い合わせ先】

株式会社イワキ 経営管理本部 経営管理部 経営企画課

E-mail : [ir@iwakipumps.jp](mailto:ir@iwakipumps.jp)

受付時間 : 9時～17時30分

(土曜・日曜・祝日・その他当社休業日を除く)

- この資料は投資家の参考に資するため、株式会社イワキ（以下、当社）の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。
- 当資料に記載された内容は、本日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。
- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」（forward-looking statements）を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。